

平成27年度第3回立山町総合教育会議 議事録

1. 開催日時 平成28年2月22日（月）15時から16時まで
2. 開催場所 立山町役場4階全員委員会室
3. 参加者 町長 舟橋貴之
教育委員 大岩久七、石原るり子、大畑年、金川良子、有馬信幸
4. 事務局 企画政策課 久保和彦、清水厚、竹腰三佳
教育課 大塚和明、山元秀一、村上公堂、林宏之

[協議事項]

- ・立山町教育大綱（案）について、事務局から概要と補足説明を行った。
- ・立山町教育大綱（案）についての意見交換において、
教育委員から、「全体的にこの方向性で良い。町長の教育に対する強い思いはさることながら、行政としての使命（責任）が色濃くでている。」
「もっと町民や子どもたちの姿と姿勢が見えてくるよう、主人公である町民や子どもたちが主体となるよう表現してもいいのでは。」
「大綱は、基本理念として位置付けられる。これを町の教育振興基本計画で補完し、具体化していくことになる。」
「大綱の基本理念、人を育成、ではなく、人材を育成、としては。」
「基本目標1にある、生きる力を考えたとき、知・徳・体のうち、徳の部分が弱いと感じる。3つのバランスがとれてこそ、生きる力が備わった子どもが育つのでは。」
「基本目標1で礼儀を取り入れるのであれば、もう少し文章を付け加える必要があるのでは。」
「基本目標3にある、ふるさと教育は、これまで町も大切にしてきた、これからも重要である。ふるさと教育が真の国際人の要素となるのはわかるが、鋭角的な表現にも捉えられるのでは。」
「基本目標4は、経済的理由による支援も必要だが、頑張っている子どもへの支援もあってよいのでは。」

等の発言があった。

町長は、「強調したいところは、「読み・書き・そろばん（計算）」、そして「自国の歴史を語る人間を育てる（真の国際人を育てる）」のところ。義務教育の9年間までが行政の責任との思いから、大綱は、義務教育修了時まで子どもたちが生きていくための力をつけてほしい、という思いが中心である。

また、大綱は大きな理念を示しているものであり、ここにすべてを盛り込むのではなく、細かい部分は、町の教育振興基本計画で補完している。」

と発言した。

その他、教育委員から、

「インターネットの使い方等の情報の影の部分（情報モラル等）、体験や経験、交流学習の充実も重要では。」

等の発言があった。

- ・全国学力・学習状況調査（小学校）の結果公表の検討についての意見交換において、町長は、「前回の町総合教育会議でも申し上げ、また12月議会の総務教育常任委員会においても、小学校については公表してはどうかとの発言を賜った。これまで教育委員会は、学校が特定される恐れがあるため公表しないとの説明であるが、小学校は特定されるとは思わない。私は、人や将来にお金を投資する、すなわち教育環境において「選ばれるまち」となり、立山町へ移住したい、そのPR、成果の一つが全国学力・学習状況調査（小学校）の結果公表であると思っている。町教育委員会でもぜひ検討してほしい。」

と発言した。

- ・最後に町長から、

「本日の意見交換等をもって、おおよその方向性は了解いただけたものとし、今後は事務局で文言を整理し、教育委員会と調整のうえ、パブリックコメントにかけたい。」

との発言があり、全員了承した。

[閉会時刻 16時00分]